

## 博物館がやってきた！ in 奄美大島

鹿児島県立博物館による「博物館やってきた in 奄美大島」が下記のとおり開催されます。

多くの参加者をお待ちしております。

期間 令和6年10月17日（木）～10月20日（日）

開館時間 17日～19日は、9時～17時 20日は、9時～16時

入場料 無料（星空観察会は、参加費50円）

内容 郷土の自然解説、工作体験、星空観察会

### 郷土の自然解説【村体育館】

展示してある「郷土の自然紹介」パネルの内容を学芸主事の先生が説明していただきます。

### 工作体験【村体育館】

液体窒素を使った実験や工作教室を行います。

### 星空観察会【防災センター】

防災センター屋上から見える星座について学芸主事が説明していただきます。（雨天時は多目的ホールでの解説）

### 展示【村体育館】

鹿児島と世界の昆虫、鹿児島の天然記念物、貴重な生物の標本や写真パネル、恐竜化石や鉱物等をさわれるコーナー・・・その他多数展示



### 【申込について】

自然解説や工作体験、展示鑑賞については申込不要です。

### 【星空観察会の申込】

星空観察会は、定員30名（先着順）となっておりますので、右QRコードから申込をお願いします。締切：10/14（月） 17時

申込みはこちら↓



## 本(ぶん)の読(よ)む甲(か)果(くわ)てやねん？

### 奄美の動物の生態系で頂点に立つのはハブ？

9月3日に奄美大島における特定外来生物であるマングースの根絶が宣言されました。5年ほど前、龍郷町のりゅうゆう館での講演で野生生物保護センターの方が「このままだと、数年後には根絶を宣言することができるかも知れません。奄美大島ほどの大きな島での根絶はこれまで類がなく、世界的にみても本当にすごいことなんです。」と話されたのを思い出しました。

みなさんをご存知の通り、マングースはハブ退治を目的に沖縄島に放たれました。ハブとマングースと言えば、ショーとしての対決が思い出されます。光で見ているマングースに対して、熱を感じて行動を起こすハブとでは、その初動までの時間に大きな差があり、結果的に7割～8割の確率でマングースが勝つそうです。その勝率を利用して放たれたのかも知れませんが、ショーの対決は限られた狭い空間で、先にやらなければやられて殺されてしまうという極限の状態だからマングースも文字通り必死に闘ったと思います。ところが、夜行性のハブに対して、昼行性のマングースとでは、ショーのような極限状態になることは滅多にないため人間の思惑通りにいきませんでした。アメリカ軍政下時代には、イタチを枝手久島に入れて試験することもあったそうです。また、アフリカ産のハブ喰い鳥「セクレタリーバード」の計画もあったが、効果が疑われ取り止めになったようです。

ところでみなさん、よく見かける動物でマングースよりも高い勝率でハブに勝つ動物がいますよ。それはおとなのカラスです。『南島雑話』には「反鼻蛇」と表記され、見事な挿絵入りで書かれています。また、文英吉氏著の『奄美大島物語』にも『南島雑話』と同じように詳しく述べられています。では、カラスはどのようにしてハブを征するかというと、カラスのひなを目掛けてやって来たハブにカラスはハブの鼻の先っぽを小づら憎い程の低空飛行を試みる。ハブは例の気性で一撃を加える。すると、カラスは羽を広げて平気でうたせる。これを何回と繰り返すうちにハブが疲れ切るのを待って、カラスは猛烈な逆襲を企てハブをとちめるのです。ハブがあるったけの毒素を放出した後で、安全とみて逆襲に転ずるのです。そして、内蔵を喰い散らかして飛び去っていくのです。この二者の遭遇戦は村里近くの山などでよく見かける光景であったようで、いつもハブがやられてしまうそうです。ちなみにカラスの天敵はサシバやフクロウなどの猛禽類だそうです。

終わりに、夜な夜なハブバスターズとなってハブ捕りに出かける方々のお陰で安全に暮らすことができ、ハブタマガリヤの私は大変感謝しております。ハブ捕りと聞くと、渚ゆう子さんの『女ひとり』（♪京都 大原 三千院…）を替え歌にして、「♪ハブは1匹 3千円 …」。くれぐれもお気を付けてください。



南島雑話より